



◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

今号は、ミュージカルを通して環境問題にアプローチしている活動を中心にお送りします。環境について、音楽あり笑いありの中で、楽しく学び、より多くの人々に環境への意識の輪が広がるきっかけとなりました。そして野外のイベント活動なども増えてきました。熱中症のリスクが高まる季節なので、こまめに水分補給を心がけましょう！

■2022年3月19日(土)～20日(日)〔岐阜県海津市 OCT文化センター〕

海津市 市民創作ミュージカル

「ハリヨと生きる」ー水面に煌めく命の唄ー が 上演されました！

ハリヨの保全をテーマにした海津市主催の市民創作ミュージカル「ハリヨと生きる」が海津市OCT文化センターにて上演されました。2日間で約700人も多くの入場者でにぎわいました。

当日の公演前に、脚本の浅野公蔵様、作曲の熊沢辰巳様にインタビューしました。

海津市では「五色の糸と機織りの唄」など、過去にも市民創作ミュージカルを公演してきましたが、今回はハリヨという生き物の保全がテーマということで「ハリヨを知る」ところから脚本づくりが始まり、ハリヨについて知るために、ハリヨを研究している岐阜県立大垣東高等学校理科数科ハリヨ班の研究成果などをみて、ハリヨがどんな魚なのか、どんな場所にいいのかを調べたそうです。また、中日本冰糖株式会社などの地元関係者にも取材し、地域の実態に即した形で、ハリヨの生態と海津市の人々の生活を演出するミュージカルを創作したとのことでした。



▲ソーシャルディスタンスに配慮しつつ、みなさん始めるのを楽しみにしていました。

人間の活動がハリヨに悪影響を与えているといった負の側面だけでなく、出演者の子供たちの意見を取り入れたコメディなど、劇を面白く見ることができる要素を散りばめ、観客の気持ちが重くならないよう工夫されており、ミュージカルの最中は会場から笑い声が漏れていました。

また、「保護は生きものを守る、保全は生きものが住んでいる環境を守る」というメッセージを言葉だけでなく、踊りや音楽を使って表現することで、よりわかりやすく印象的に伝えていました。

ハリヨの保全の取り組みについて知るとともに、ミュージカルという文化に触れられる貴重な体験でした。



◀ロビーでは、木曽川の生き物や自然環境に関するパネル展示が行われていました。足を止めて見ている人もいて、関心の高さがうかがえます。

■2022年4月23日(土)〔愛知県一宮市立起小学校〕

一宮市立起小学校

「ジャブジャブ池調査隊」結成！

イタセンパラの飼育に取り組んでいる一宮市立起小学校で、新たな取り組みが始まりました。学校の池を改造して、目の前にある木曽川のワンドのような環境を再現しようとの試みです。まずは手始めとして、「ジャブジャブ池調査隊」を結成し、現在の池に生息している魚を調べることにしました。

当日は起小学校の児童のほか、起小学校を卒業した中学生や、一宮市尾西歴史民俗資料館のワークショップでワンド保全に取り組んでいる愛知県立一宮高等学校生物部の生徒も参加し、起小学校の子どもたちの指導やお手伝いを行いました。

調査の結果、フナと外来種のカダヤシが確認され、池の改造のために何をすれば良いかを考える勉強会も行いました。今後もワークショップを開催し、魚の棲みやすい池を目指して取り組んでいくとのことでした。



▲どんな生き物が生息しているかな？ジャブジャブ池調査隊による調査が開始されました。



▲「この生き物はなんだろう？」一宮高等学校生物部のみなさんが一所懸命に調べる子供たちをサポートしました。

瑞穂市初のSDGsイベント

さい川さくらフェスが開催されました

～みずぼでつながるSDGs 2022～

岐阜県瑞穂市と大垣市にまたがる犀川遊水地河川敷のさい川さくら公園で「さい川さくらフェス」が3月20日に開催されました。SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みが体験できるイベントとして、地元企業や団体のブースが出店され、多くの人で賑わいました。SDGsに楽しみながらふれていただくきっかけになりました。



▲ぼうさい体験。身の回りのものでろ過装置を作って、水をキレイにしてみよう！

■2022年2月5日(土)～6日(日)〔愛知県一宮市 アイブラザー宮〕

イタセンパラを題材とした環境ミュージカル 「シンデレラ号と未来の約束 SDGs」が上演されました！

イタセンパラを題材とした環境保全PR活動として、劇団シンデレラさん主催のミュージカルが上演されました！

会場では展示ブースが設けられ、愛知県立一宮高等学校生物部、藤前干潟を守る会など、様々な協力団体の資料が展示されていました。

当日は、お子さんを中心とした出演者の皆さんが、歌と踊りを交え、観客全員に配られたうちわを使ったパフォーマンスで場を盛り上げていました。イタセンパラの生態や保全の重要性、海洋ゴミ問題等に関する問題提起や、岩倉市での麦ストローの普及、真清田神社の紹介を取り入れた、楽しく観劇できる内容となっていました。木曽三川流域の生き物や文化を楽しく知ることができるイベントでした。

当日は大盛況！▶



▲カーテンコールでは、いろんな生き物がご挨拶。



▲シンデレラ号の乗船チケット（パフォーマンスに使用したうちわ）

YouTubeでも動画が配信されています。
YouTubeのサイトで
「シンデレラ号と未来の約束SDGs」
を検索してみてください！

エコネット応援団に新しい仲間が増えました！

「mizube38 あおみどり」と「劇団シンデレラ」さんが、エコネット応援団に仲間入りしました。

mizube38 あおみどり

一宮市を拠点に、木曽川の魅力を伝えるためのイベントの開催や砂丘の保全活動などを行っています。

■mizube38 HP (<https://mizube38.com/>)



特定非営利活動法人 緑の森のシンデレラ (劇団シンデレラ※)

一宮市を拠点に、全国各地で環境保全をテーマとしたミュージカルの公演や環境教育活動を行っています。

※ミュージカル公演は「劇団シンデレラ」の名称で活動されています。

■劇団シンデレラ HP (<https://www.dozira.net/>)



木曽三川流域おさかなコラム vol.8

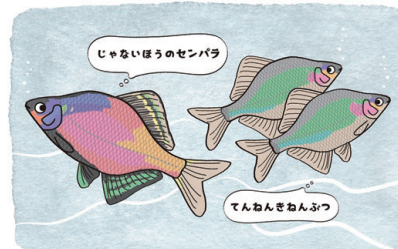
じゃないほうのセンパラ ～カネヒラ～

木曽三川の顔役と言えばなんといってもイタセンパラですが、実は他にも“センパラ”と呼ばれる魚が生息しており、その1種が“カネヒラ”というタナゴの仲間です。カネヒラは日本のタナゴの中では一番大きく全長 15cm ほどにまで成長します。イタセンパラと同じように秋に産卵する種類ですが、黒と紫のずっしりした美ボディを見せるイタセンパラとは違い、水色と桃色のさわやかな色になります。いずれのタナゴ類も見た目に反してとても苦いので、食べるのはお勧めしません。

見た目は何とも可愛いカネヒラですが、日本のタナゴの仲間内では唯一、レッドリストに掲載されていない普通種とされています。同じく秋産卵型でも天然記念物に指定されるほどの希少種であるイタセンパラとは違い、なぜかいっぱいいるカネヒラ。春一番に二枚貝から浮上することで他種の稚魚よりも早く成長する点ではイタセンパラと同じですが、カネヒラならではの特徴として、川の本流や湖沼など、大規模で安定した水域を好んでいるようです。一方で、ワンド等を好むイタセンパラ

が希少種になった背景には、ブラックバスのような外来生物の影響もさることながら、氾濫原環境（川の水が増えたときに本川と繋がったり繋がらなくなったりするワンドなどの環境）の減少が響いていると考えられています。このように2種の好む住環境の違いから環境の変化を考えることもできますね。

なぜ違うのか、どこが違うのか、ということをよく考えてみると、いろいろなアイデアが浮かんでくるもので、じゃないほうのセンパラも、私たちにいろんなことを気づかせてくれます。ちなみに、カネヒラはちょっと深いところや濁ったところにいるので、会いに行くには川よりもカネヒラがいる水族館へ行くのがおすすめです。さらに、イタセンパラもいる水族館なら2種を見比べて“じゃない”つぶりも確認できるので、とってもお得です。



facebook ページはこちらからアクセス！
<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



掲載用情報を募集しています！

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曽川上流河川事務所）は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成 26 年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojo/econet/index.html>>

木曽三川流域エコネット応援団 事務局：国土交通省 木曽川上流河川事務所 調査課（岐阜県岐阜市忠節町 5-1）

【問い合わせ先(R3事務局窓口)】cbr-kisojo-choosa@mlit.go.jp / tel 058-251-1125 / fax 058-251-1150

